

国民には大増税



軍事費を削減し 復興財源と暮らしへ

軍事費

0.6%増
4兆6906億円

防衛省は、今年度当初予算に比べて0.6%増の4兆6906億円にもなる2012年度予算の概算要求を提出しました。さらに、米軍再編経費などを含めると4兆8033億円にもなります。

野田政権が、東日本大震災の復興財源といいながら国民には増税を押し付ける一方で、無駄の象徴である軍事費を事実上「聖域」扱いにシドンドン増額するのでは、私たち国民は納得できません。「軍事費を削減し、復興財源と暮らしに回せ」の声をさらに大きくしましょう。



《海外派兵予算の突出》

今回の概算要求の特徴は、自衛隊を世界のどこにでも緊急動員する「動的防衛力」構想のもとに「軍事対抗主義」を前に押し出しているのが特徴です。ここには、先の日米首脳会談で野田首相が、「日米軍事同盟の深化・発展」をオバマ大統領にした約束を、忠実に果たそうとする姿が現れています。

●ヘリ空母の導入（1隻 1190億円）

保有が4隻と決まっているヘリ護衛艦を全て大型化し、10数機のヘリを搭載できるものへと置き換え、海外での作戦能力をさらに強める狙い。

●C2輸送機（2機で333億円）

日本の「域外作戦能力を向上させていく」と明記した「米国家軍事戦略」にそったものです。

●在日米軍への思いやり予算

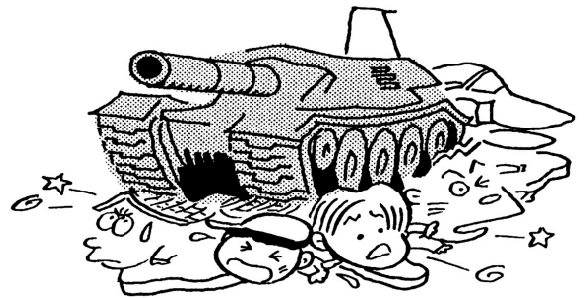
今年度より57億円多い1919億円

●普天間基地「移設」関係

1470億円

●宇宙の軍事利用

今年度611億円が2609億円



今必要なのは、軍事力ではなく憲法9条を生かした外交力です。

日米安保、誰のためのものか？東日本大震災で未曾有の被害にあえいでる日本に、日本が支払う義務のない「思いやり予算」を要求し、普天間基地の移設先の新基地建設経費、グアムでの基地建設経費、米軍機の訓練費用…これが本当に友好国のすることでしょうか。米国いいなりの野田政権は情けない。

一緒に、原発に「NO!」の声をあげましょう。

安全な原発なんてない!!

みんなで行動しましょう。



この夏、福島の子どもたちは
プールにも入れませんでした…

Q.放射能汚染、止めることできないの？

A.原発事故でひとたび放射性物質が外に出たら、それを抑える科学や技術を人類はもっていない!

化学的毒性は分子を高温で分解したり、化合物にしただりして無毒化できますが、放射能被害は空間的にはどこまでも、時間的には将来にわたり続きます。「海で拡散し薄められるから大丈夫」とはとんでもありません。ごく微量でも食物連鎖を通して濃縮され、やがて思わぬ災厄に至ります。セシウムに汚染された肉牛が全国に流通したり、あちこちにホットスポットがあったり・・・たった一度の事故で1000人を超える子どもたちが県外へ転校せざるを得なかったり、「将来のために」と先生が体調日記を子どもたちに書くように言わなければならない・・・他に類がない「異質な危険」これが原発事故です。

Q.もっと安全な原発はつukれないの？

A.今の原発技術は未完成で危険

原発はとてつもなく大量の放射性物質(=死の灰)を生み出します。→100万KWの原発で広島型原爆1000発を超える(国内54基の原発で4885万KW)その「死の灰」を100%安全に閉じこめておく技術は現在ありません。日本の原子炉(軽水炉)は冷却水がなくなるとたちまちコントロール不能に陥ります。さらに「使用済み核燃料」を後始末する方法も見つけ出されておらず、「トイレのないマンション」といわれています。



Q.どこか別の場所に移せないの？

A.地震・津波大国に大丈夫な場所はない。

福島原発の震度6以上の地震の確率は「0.0%」でした。日本列島ではどこでも大きな地震が起こる可能性があります。日本の原発は大地震の想定震源域と活断層の真上に集中、しかも沿岸部に集中しています。福井の美浜・敦賀・「もんじゅ」は活断層の1km圏内にあります。

*原発に安全基準は
そもそも作れない?!

自動車は商品になる前に何度も衝突テストをするけど原発は核を積んでいるから地震のテストは当然できない。

えーっつ!! 耳を疑う野田首相の「原発」演説

国会では原発への「依存度を引き下げていく」
国連では「原発依存」「原発輸出」を鮮明に。

原発からの撤退を求める世論は日に日に広がっています。つい先日には東京で開かれた「さようなら原発集会」に6万もの人たちが参加しました。そうしたさなかに野田首相が原発に依存し続ける態度を国際社会に発信するのは国民への裏切りそのものです。原発依存を続けることは許されません。

あきれる門川京都市政の認識

“福島事故のような複合災害のリスクは
かなり少ない”“琵琶湖の放射性物質は大量の湖水で薄まる”(防災対策総点検委員会)

なくそう原発! 変えよう自然エネルギーへ!

○ 原発に頼らなくても大丈夫

- 一必要なのは、変えるという国の「決断」
- ▼現在のいろいろな発電能力を合計すれば電力生産はほぼ可能。
- ▼自然エネルギーが豊富であり、一気にエネルギー転換をすすめる可能性がある。

○ 放射能とどうむきあうか

- 一被害の拡大・進行を止めるために一汚染対策は一人で悩まずみんなで考え、国や自治体を動かしましょう!
- ▼放射線量の測定をあらゆる地域で行わせ、迅速な情報(数値)開示を求めましょう。
- ▼子どもの被爆を減らすため、表土除去等、考え得るあらゆる手だてをとらせましょう。
- ▼食品の放射能汚染を防ぐあらゆる手だてをとらせ、全食品検査を公開させましょう。

